

おわりに

群馬大学共同教育学部附属小学校 副校長 木口 卓哉

新型コロナウイルス感染症の収束・終息が見通せない状況が続く中、今年度も対面での公開研究会が実施できないことは誠に残念ですが、昨年度と同様に、オンライン形式とはいえ、研究会を実施できますことを嬉しく思います。

昨今は、様々な研究会・研修会がオンライン形式で開催されるようになりました。研究会・研修会の新たな形として、定着しつつあるようにも感じます。

昨年度の公開研究会では、全20本の授業動画を配信したところ、総再生回数は約8,200回、研究会には約700名の方にご参加いただき、ICTを活用した実践に対する皆様の関心の高さを実感いたしました。また、オンライン形式での開催にしたことにより、遠方の方や、目の前の子どもたちの指導のために、研究会に参加する時間を割くことが難しかった方にも参加いただくことができました。

一方で、「見たい部分を見られない。」「音声聞き取りにくい。」「授業中の雰囲気や臨場感が感じられない。」など、ご不満な点もあったことと思います。

本年度は、昨年度の課題点を改善すべく、様々な工夫をしてみましたが、ご満足いただけない点もあるかもしれません。その点に関しては、何卒ご容赦ください。

また、オンラインでの研究会では、発言しづらい面があると思います。多くの皆様と直接、顔を合わせて、教育や授業について語り合える日が来ることを願ってやみません。

本年度は、昨年度の成果と課題や本校児童の実態の分析結果を基に、研究主題「社会に変革を起こす子どもたちの育成」を踏襲し、副主題を「非認知的能力を高める学びのデザインを通して」として、非認知的能力が発揮された姿を想定し、その姿が現れるための学びのデザインについて探ってきました。私たちの取組が、県内外の子どもたちの「学びに向かう力、人間性等」の涵養のための一助となれば、この上ない喜びです。

本校職員は、これからも、子どもたちの豊かな成長を願い、「社会に変革を起こす子ども」を育成できるよう、よりよい授業を目指して全力で取り組んでまいります。そして、来年度こそ、皆様と直接お会いして、教育や授業について語り合えるよう、新型コロナウイルス感染症の一刻も早い収束・終息を願っております。

結びに、本校の研究を進めるにあたり、熱心なご指導と丁寧なご助言をいただいた、群馬県教育委員会をはじめとする関係機関の皆様方、研究協力者である群馬大学共同教育学部の先生方に、この場を借りて深くお礼を申し上げます。今後とも、本校の取組が、県内外の多くの皆様の参考にしていただけるものとなるよう、引き続きご指導をお願い申し上げます。